

【2021年9月 From Kobe】 9月夏から初秋へ季節の便り

2021.9.1. From Kobe by Mutsu Nakanishi

コロナ禍で雪隠詰めの車いす・リハビリ生活で全く身動き取れず、ご心配をかけました。
 本年の梅雨時から盛夏をそっくり約2ヶ月の入院生活 8月16日やっと退院することができました。
 8月30日の経過検診で「順調な回復状況で全快」と診断され、ほっと一息です。
 9月になって 一機に夏から秋へ 青空が戻りましたが、新型コロナ禍の厳しい毎日
 いかがでしょうか 厳しい自己節制の日々が続きますが、御身大切にお守りください。

青空が戻りましたが、厳しい暑さと新型コロナ禍の中
 夏から秋へ ピンクの朝顔と千日紅の花が 朝の門先を飾っています
 高齢者には まだまだ厳しい初秋9月の始まり
 いかがでしょうか……

仲間の元気は みんなの応援歌!!
 頑張りすぎず、時には声をあげて!!
 お互い スクラム組んで 助け合って
 乗り越えましょう

また 笑顔で逢えるのを楽しみにしています
 God Be With You!! 2021.9.1.
 from Kobe Mutsu Nakanishi

千日紅 (センニチコウ)
 花言葉は「色あせぬ愛」



百日紅(さるすべり)の花



千日紅の花そして朝顔

約2ヶ月 無事退院できました
 ご心配かけ、ありがとうございます

初秋を告げる百日紅(さるすべり)と千日紅
 (せんいちこう)そして朝顔

足の踵骨折で約2ヶ月入院、8月16日に退院。
 ようやく帰った門先でお帰り!!と
 百日紅や千日紅の花そして朝顔が出迎えてくれ
 た。入院した梅雨時には、どれも咲いていませ
 んでしたが 嬉しいお出迎え。 もう夏から初
 秋へ 長かった。

8月30日退院10日後のレントゲン検診で、オー
 ルOK 全快に。
 さあ がんばるぞと気分も新た
 いろいろ ご心配いただき、ありがとうござい
 ました。
 まだ 足はぎこちない歩行ですが、
 まあ なんとかかなと。
 また元気な笑顔の再会も期待。やれやれです。
 片足が地に付けられぬことがどんなに大変かと
 高齢者になると何が起こるかわかりません。
 どうか十分ご注意ください。

2021.9.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

私のメールアドレス帳にある皆様にこのメールを配信しています。重複してお送りしていれば、お許しください。
 高齢者にはまだまだ厳しい初秋 9 月の始まり夏から秋へ 何かのお役に立てばと。
 厳しい入院生活で 「地に足を付けぬきびしさが、こんなにたいへんなのか・・・」と身に沁みました。
 すぐ帰れるとおもっていましたが、思いと身の動きとのギャップ 足の踵は大変だと。また、コロナの検査はおかげさまで陰性での入院でしたが、入院中家族とも顔を見合わせぬしんどさ。
 何とかスマホ・LINE で外とつながることもできて、仲間のありがたさに染みんでいます。本当に感謝 ありがとうございました。
 まだまだ歩行もまだギコチナイですが、元気に新しいスタートと。



家に帰ってみれば、感染爆発で、いまだに見通しの立たぬ日々。
 「自分の身は自分で守る」一番いやな言葉ですが、そんな覚悟もまた必要な時節。
 自制・節制の徹底も必要かと。頑張らねばと。
 でも 何とか仲間・世間とつながっていないと・・・・・・・・
 特に何も無いのですが、2 ヶ月近く、身動きとれぬ状況の入院から解放され、
 元気に動き始めた報告もかねて、2 つの私信資料添付で
 この「9月夏から秋への便り」を配信させていただきます。

◎ 夏の朝を爽やかにしてくれた毎朝の朝顔便り 2021 朝顔帳



■ 和鉄の道 今月のHP 掲載記事 リスト 2021.9.1.

1. PDF Photo Album 夏から初秋へ 9月 季節の便り(私信)

「百日紅・千日紅そして朝顔 やっと退院できました」

今真っ盛りの百日紅と千日紅そして夏の朝を爽やかにしてくれた朝顔を Photo Album に

2. 8月神戸新聞に掲載された阪神大空襲・尼崎空襲の特集記事のPDF 切り抜き整理

8月神戸新聞に掲載された阪神大空襲・尼崎空襲の特集記事 幼い頃の断片的な記憶がふつと、記事添付しましたので、ご興味あれば・・・



3. 絵文字で描いた兵庫県全図 今インターネットで絵文字の場所探しが人気に

一番の人気はお城の絵文字で描かれた尼崎だと・・・ほかにもいろいろ場所探しにはまっています。

小森文美さんがデザイン「絵文字で描いた兵庫県図」

<https://maidonanews.jp/article/14428775>

4. PDF File from Kobe 9月 平和ってなんだろう コロナ禍の中で



今 青空を背にピンクの百日紅(さるすべり)と千日紅(せんにちこう)の花が素晴らしい。

夏の朝を爽やかにしてくれた朝顔 毎日の朝顔便りが楽しみに また、夜は真っ暗の中に虫の声

仲間の元気は みんなの応援歌!! 頑張りすぎず、時には声をあげて!!

お互い スクラム組んで 助け合ってこの難局を乗り越えましょう

笑顔で逢えるのを 楽しみにしています

まだまだ厳しい自己規制の日々が続きますが、どうか 無理せず、元気に前向きにお過ごしください
また連絡ください

God Be With You!! 2021.9.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

青空が戻りましたが、厳しい暑さと新型コロナ禍の中
夏から秋へ ピンクの朝顔と千日紅の花が 朝の門先を飾っています
高齢者には まだまだ厳しい初秋9月の始まり
いかがでしょうか……

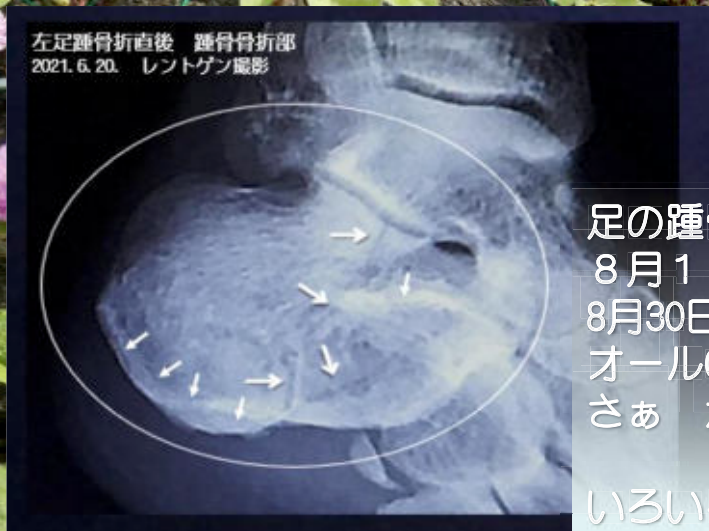
仲間の元気は みんなの応援歌!!
頑張りすぎず、時には声をあげて!!
お互い スクラム組んで 助け合って
乗り越えましょう

また 笑顔で逢えるのを楽しみにしています
God Be With You!! 2021.9.1.
from Kobe Mutsu Nakanishi

千日紅 (センニチコウ)
花言葉は「色あせぬ愛」



左足踵骨折直後 踵骨骨折部
2021.6.20. レントゲン撮影



足の踵骨折で約2ヶ月入院、
8月16日に退院
8月30日退院10日後のレントゲン検診で
オールOK 全快に。
さあ がんばるぞと気分も新た

いろいろ ご心配いただき、感謝です
ありがとうございました。

2021.9.1. Mutsu Nakanishi

夏から秋への朝 朝顔と千日紅 我が家の門先で



百日紅(さるすべり)の花



千日紅の花そして朝顔

約2ヶ月 無事退院できました
ご心配かけ、ありがとうございます

初秋を告げる百日紅(さるすべり)と千日紅
(せんいちこう)そして朝顔

足の踵骨折で約2ヶ月入院、8月16日に退院。
ようやく帰った門先でお帰り!!と
百日紅や千日紅の花そして朝顔が出迎えてくれ
た。入院した梅雨時には、どれも咲いていませ
んでしたが 嬉しいお出迎え。 もう夏から初
秋へ 長かった。

8月30日退院10日後のレントゲン検診で、オー
ルOK 全快に。

さあ がんばるぞと気分も新た
いろいろ ご心配いただき、ありがとうございます
ました。

まだ 足はぎこちない歩行ですが、
まあ なんとかなんと。

また元気な笑顔の再会も期待。やれやれです。
片足が地に付けられぬことがどんなに大変かと
高齢者になると何が起こるかわかりません。
どうか十分ご注意ください。

2021.9.1.From Kobe Mutsu Nakanishi



百日紅

「幹がすべすべで人肌のように、だから人の生気を吸いとる」
「滑り」から「運気が落ちる」とか連想されて
縁起が悪く庭木には向かない人も、またその逆に取るひともそれぞれ。
真っ青な初秋の空をバックにピンクの花 やっと帰ってきたとの一瞬
今年は本当に鮮やかでひとしお

千日紅

色あせず長く咲き続ける可愛い花で、仏花やドライフラワーに。
どちらも長く咲き続ける心地よい花
合わせて夏の朝を毎日彩ってくれた朝顔も。
我が家の庭先の花たちにも ありがとう



(センニチコウ)

千日紅

花言葉は “色あせぬ愛”

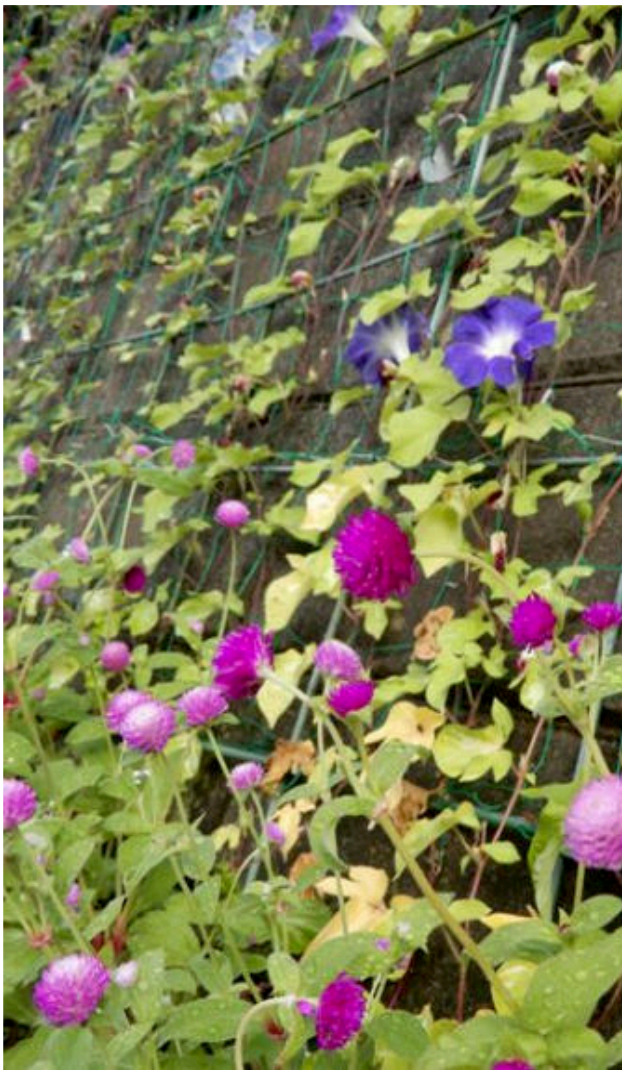
花色があせる事なく長く咲き続けるので
千日紅の名前が付けられました！
仏花やドライフラワーなど
生活の中に取り入れられ
親しまれている可愛い花です。

夏から秋へ我が家の門先で 2021.9.1.

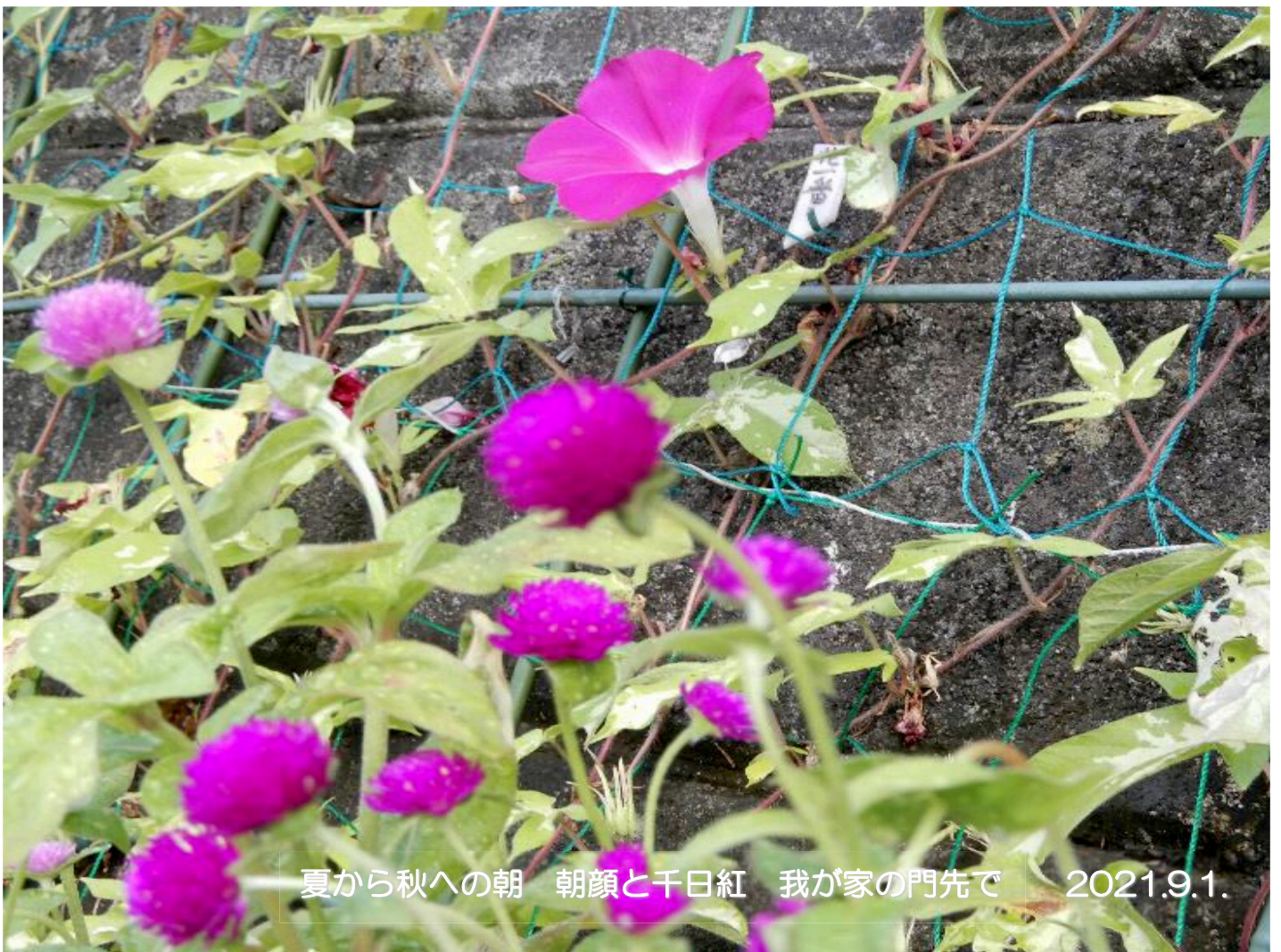


毎朝届く朝顔便り 毎日が楽しみで ありがとう

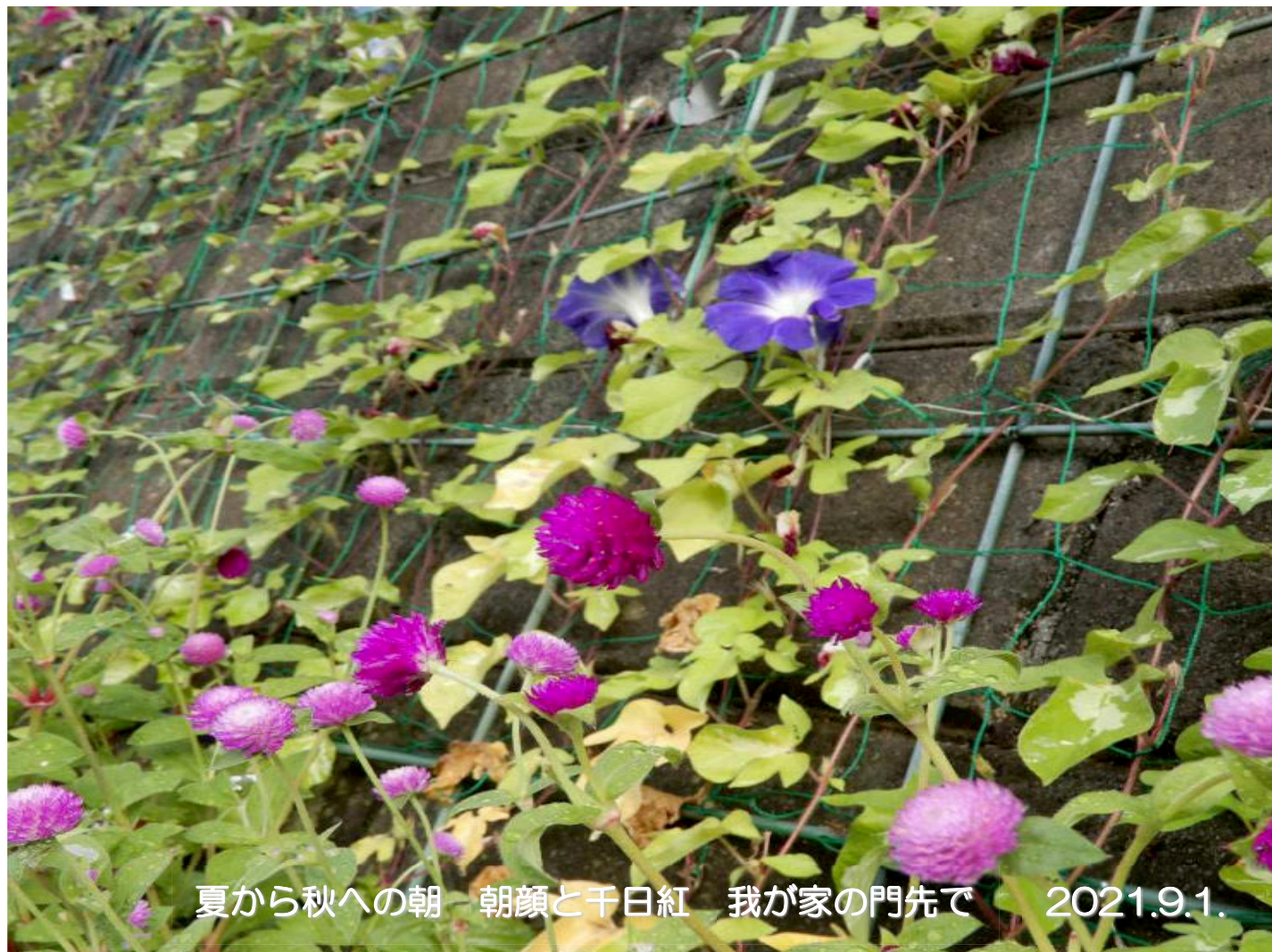
今日も 夏の終わりを飾っています 我が家の門先で 2021.9.1.



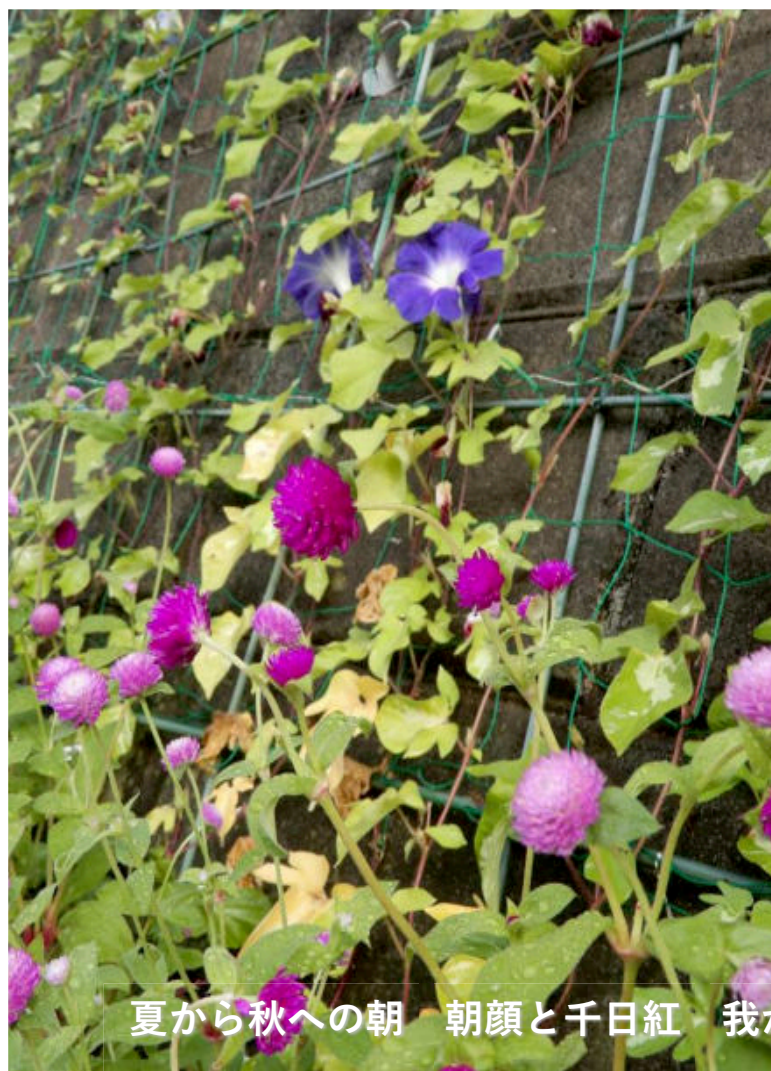
夏から秋へ我が家の門先で 2021.9.1.



夏から秋への朝 朝顔と千日紅 我が家の門先で 2021.9.1.



夏から秋への朝 朝顔と千日紅 我が家の門先で 2021.9.1.



夏から秋への朝 朝顔と千日紅 我が家の門先で 2021.9.1.

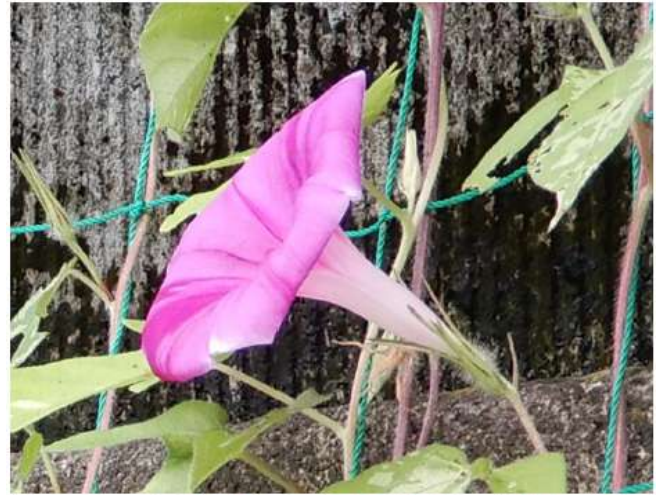


2021.9.1.

2021朝顔帳 夏の朝を爽やかに

今年も夏の朝を爽やかにしてくれた朝顔の便り・朝顔帳







2. 8月神戸新聞に掲載された阪神大空襲・尼崎空襲の特集記事のPDF 切り抜き整理

8月神戸新聞に掲載された阪神大空襲・尼崎空襲の特集記事 幼い頃の断片的な記憶がもつと。

空襲を受けた傷跡が残る故郷「尼崎 東難波 梅の里」 幼少の記憶を呼び起こしてくれた
神戸新聞 2021. 8. 17. 阪神空襲と米軍文書 尼崎空襲の記事

2021. 8. 27. 採録 Mutsu Nakanishi



爆撃日	経緯	作戦	目標	出撃機数	焼夷弾	高性能爆弾	その他
3月13～14日	夜	大都市焼夷弾攻撃	大阪市街地	295	1732.6		
3月16～17日	夜	大都市焼夷弾攻撃	神戸市街地	331	2308.7		19.4
6月1日	経	大都市焼夷弾攻撃	大阪市街地	509	2706.9		81.6
6月5日	経	大都市焼夷弾攻撃	神戸市街地	523	3006.3		72.8
6月9日	経	精密爆撃エンパイア計画	川西航空機工場製作所	46		263.5	
6月15日	経	大都市焼夷弾攻撃	大阪一尾路市街地	511	3157.3		
7月19日	夜	精密爆撃石油施設爆撃	日本石油関西製油所など	84		701.8	
7月24日	経	精密爆撃エンパイア計画	川西航空機工場製作所	348		1154.5	
8月5～6日	夜	中小都市空襲	西宮一御影市街地	261	1922.8	33.5	47.6

上左: 尼崎市域が攻撃対象となった1945年6月15日の空襲に関する米軍の「作戦任務報告」の写し

上中: 1945年6月5日朝、B29爆撃機の攻撃を受けて炎上する神戸の街 (米軍撮影)

上右:

上右: 1945年8月6日の空襲で燃える西宮市街 (多田克さん提供)

下左: B29 爆撃機

下右: B29 爆撃機による阪神間の主な空襲

神戸新聞 2021年8月15日 阪神空襲 狙われた理由 (1) 阪神空襲と米軍文書 尼崎と西宮で異なる作戦より



左: 1945年6月15日の空襲体験を語る淀川トシ子さん=尼崎市

中上: 尼崎市域への攻撃中心地点を示した米軍文書「作戦任務報告」(国立国会図書館デジタルコレクションより)

中下: 焼け野原となった1946年ごろの尼崎市の杭瀬商店街付近 (故・中田寅一氏撮影、尼崎市立歴史博物館提供)

右: 尼崎市域への攻撃中心地点を示した米軍文書「作戦任務報告」尼崎空襲概略図

新聞 2021年8月15日 阪神空襲 狙われた理由 (2) 阪神空襲と米軍文書 臨海部避けた焼夷弾「投下のミス」は思い込みより

狙われた理由(2) 阪神空襲と米軍文書 臨海部避けた焼夷弾「投下のミス」は思い込みより

145年6月午前8時半すぎ、爆撃機「B29」の511機もの編隊が紀淡海峡を抜けて大阪湾に入り、兵庫県尼崎市に迫り来る。

当時19歳の淀川トシ子さん(95)は杭瀬地区で製鋼関連の軍需工場に出勤し、作業を始めたところだった。空襲サイレンを聞き、「またか…」と工場敷地内の防空壕(ごう)に向かいながら、晴れ渡った空をあおいだ。翼長43メートル、全長30メートルの銀色の要塞(ようさい)が、南の空にびっしりと張り付いている。真っすぐこちらに向かってくるのを見て思った。

「この一帯に軍需工場はここしかない。間違いなく、狙ってくる」

8時44分。米軍資料によると、計2846・3トンもの焼夷弾を2時間10分にわたって投下していく。淀川さんは防空壕の隙間から同僚たちと身を寄せて機体を見上げた。真上でまかれた焼夷弾はそれぞれ真っ青な空でバラバラにはじけ、ソフトボール大の黒い塊になって降ってくる。

しかし、それは工場敷地内に落ちず、北側に大きくそれていくように見えた。

「トシちゃんの家の方から火が上がってるよ！」誰かが大声で言った。

淀川さんは軍需工場が無事だったのにもかかわらず、北約1キロ先にある自宅の一帯が焼け野原になったことを長らく「米軍の投下ミス」だと思い込んできた。しかし、作戦は確実に遂行されていた。

米軍は、尼崎を中心に3カ所の攻撃点を設け、その一つが淀川さんの自宅もあった市街地の「直径2・4キロ地帯」だった。狙いは国鉄(現・JR)沿線にある国内随一のプロペラ工場「住友金属プロペラ製造所」だったのだ。

米軍指揮官だったカーティス・ルメイは1月の就任後、火災に弱いという日本建物の弱点に着目して「焼夷弾攻撃」を採用。3月から始めた尼崎空襲は当初、日本軍の対空砲火や空中戦に備えて夜間を狙ったが、日本側の戦闘力が低いと分かると、6月からは午前中に仕掛けるようになった。

この日、4回目となる尼崎空襲は大阪とのセットでなく、尼崎を集中的に狙った最初で最後の攻撃だ。

先頭を飛ばす機体が工場向けの「結束焼夷弾」を落として炎上させ、後続機が延焼力の高い「油脂焼夷弾」を次々に放って大火災を引き起こした。

では、なぜ淀川さんが働いた軍需工場は狙われなかったのか。それどころか、尼崎市内では「日本石油製油所」や「尼崎人造石油工場」「陸軍燃料廠(しょう)」など武庫川河口に広がる臨海工業地帯も無事だった。

その理由を、米軍文書はこう記す。

「区画が水路や空き地で区切られ、大規模な延焼が期待できない」。

つまり、川や海に近いと消火されやすく、作戦効率が悪いと判断された。

「尼崎は大阪の付随とみなされ、結果的に徹底した攻撃を免れた可能性がある」と、

市立歴史博物館職員の辻川敦氏は指摘する。

プロペラ工場は66%が壊され、市内の建造物区域の11%が焼き尽くされても、市史などに伝わる尼崎の死者は

479人で、同県西宮市の637人に比べて少ないのは、作戦の違いが影響しているという。

米軍はこの日の尼崎空襲をもって「5大都市空襲を完了」とし、

西宮をはじめとする中小都市への無差別攻撃に戦術を切り替えていく。

(竹本拓也、久保田麻依子)

神戸新聞の記事。切り抜き再録

神戸新聞 2021 年夏の特集記事 阪神空襲

阪神空襲と米軍文書 - Bing

- 2021 年 8 月 15 日 狙われた理由(1) 阪神空襲と米軍文書 尼崎と西宮で異なる作戦
2021 年 8 月 17 日 狙われた理由(2) 阪神空襲と米軍文書 臨海部避けた焼夷弾「投下のミス」は
2021 年 8 月 19 日 狙われた理由(3) 阪神空襲と米軍文書 同時攻撃で迎撃を分散
2021 年 8 月 21 日 狙われた理由(4) 阪神空襲と米軍文書 西宮一御影業火に包む

神戸新聞 2021 年 8 月 15 日 阪神空襲

■1. 狙われた理由(1) 阪神空襲と米軍文書 尼崎と西宮で異なる作戦



B29爆撃機による阪神間の主な空襲						
爆撃日	昼夜	作戦	目標	出撃機数	焼夷弾	爆弾の投下量(米トン)
3月13~14日	夜	大都市焼夷弾攻撃	大阪市街地	295	1732.6	
3月16~17日	夜	大都市焼夷弾攻撃	神戸市街地	331	2308.7	19.4
6月1日	昼	大都市焼夷弾攻撃	大阪市街地	509	2706.9	81.6
6月5日	昼	大都市焼夷弾攻撃	神戸市街地	523	3006.3	72.8
6月9日	昼	精密爆撃エンバリア計画	川西航空機工場製作所	46		263.5
6月15日	昼	大都市焼夷弾攻撃	大阪一尼路市街地	511	3157.3	
7月19日	夜	精密爆撃石油施設爆撃	日本石油関西製油所など	84		701.8
7月24日	昼	精密爆撃エンバリア計画	川西航空機生体製作所	348		1154.5
8月5~6日	夜	中小都市空襲	西宮一御影市街地	261	1922.8	33.5 47.6

上左: 尼崎市街が攻撃対象となった1945年6月15日の空襲に関する米軍の「作戦任務報告」の写し

上中: 1945年6月5日朝、B29爆撃機の攻撃を受けて炎上する神戸の街(米軍撮影)

上右:

上右: 1945年8月6日の空襲で燃える西宮市街(多田克さん提供)

下左: B29 爆撃機

下右: B29 爆撃機による阪神間の主な空襲

びっしりと英語で書き連ねられた資料の束がある。太平洋戦争で少なくとも1354人が亡くなったとされる阪神間の空襲で、米軍が攻撃目標や航空機の編隊を細かく記した公文書だ。表題は「作戦任務報告」と訳され、兵庫県に関する分だけで2千ページに上る。なぜ、人々は空から狙われたのか。市民の証言と共に、地域ごとに異なる作戦の意図を読み解きたい。(竹本拓也)

尼崎市 479人

西宮市 637人

芦屋市 139人

伊丹市 6人

宝塚市 83人

川西市 少なくとも5人

三田市 5人

これは市史などにある阪神間の空襲死者数だ。国の調査はなく、戦後76年を経ても被害の全容は分からない。一方で米軍は人を除く破壊については戦略と成果を詳細に記録していた。

1944年8月、サイパン、テニアン、グアムなどマリアナ諸島を攻略した米軍はここを拠点として、ついに日本本土のほぼすべてを爆撃可能圏内に収めた。

45年1月に就任した指揮官は、陸軍少将のカーティス・ルメイ。「皆殺しのルメイ」の通称で日本人に恐れられ、後に起こるキューバ危機（62年）で米空軍参謀総長として旧ソ連への先制核攻撃を大統領に進言し、広島型原爆46万個分の爆弾投下を計画する人物だ。就任2カ月後の3月13日、米軍は尼崎を最初に阪神間の攻撃を始める。人々が見上げた空には、あの大型爆撃機「B29」があった。



「阪神間はあらゆるタイプの攻撃を受けており、いわゆる『空襲の縮図』と言えるまちなんです」

膨大な米軍資料を読み込んだ尼崎市立歴史博物館の職員辻川敦氏はそう話し、ルメイが主に計画した四つの破壊目標を挙げる。一つは、西宮、宝塚市域にあった航空機工場。二つ目は尼崎市の武庫川河口に立ち並ぶ石油工場群だ。

そして、都市としての尼崎が三つ目、西宮が四つ目に当たると指摘する。実は隣り合うまちで、作戦の色合いは全く違っていたというのだ。米軍はターゲットにする都市を綿密に決めていた。

人口約33万人だった尼崎は「5大都市」の一つ、大阪の付随とみなされた。

地続きに阪神工業地帯を形成するとして、米軍は戦略上の重要性をこう記す。

「神戸と大阪に電力を供給する大火力発電所群がある。工業の中心地であり、鉄鋼、電気製品、機械を生産し、南西には巨大な製油所がある」一方で当時人口約13万人の西宮は「中小都市」と位置づけられた。

大都市破壊の後、工業地があるかどうかを問わずに全国137都市の市街地と住民を標的としたのだ。

作戦はドイツ空軍がスペイン内戦（37年）で掲げた思想になっていた。「一般市民を総力戦を担う敵とみなして攻撃することで継戦意思を奪う」



戦前から尼崎市に暮らす関山光司さん（85）は6月の空襲直後、疎開先から急いで自宅に戻った時の衝撃を今も忘れない。一部の神社や寺の門だけを残し、自宅を含めてすべての建物が焼き尽くされたまちに、丸焦げになった同級生の遺体を見た。「なんでここだったのか…」と思わずにいられなかった。

地上にいた市民の目線と共に、空からの攻撃を再現する。

神戸新聞 2021年8月17日 阪神空襲

2. 狙われた理由（2）阪神空襲と米軍文書 臨海部避けた焼夷弾「投下のミス」は思い込み



左：1945年6月15日の空襲体験を語る淀川トシ子さん＝尼崎市

中上：尼崎市域への攻撃中心地点を示した米軍文書「作戦任務報告」（国立国会図書館デジタルコレクションより）

中下：焼け野原となった1946年ごろの尼崎市の杭瀬商店街付近（故・中田寅一氏撮影、尼崎市立歴史博物館提供）

右：尼崎市域への攻撃中心地点を示した米軍文書「作戦任務報告」尼崎空襲概略図

145年6月午前8時半すぎ、爆撃機「B29」の511機もの編隊が紀淡海峡を抜けて大阪湾に入り、兵庫県尼崎市に迫り来る。

当時19歳の淀川トシ子さん（95）は杭瀬地区で製鋼関連の軍需工場に出勤し、作業を始めたところだった。空襲サイレンを聞き、「またか…」と工場敷地内の防空壕（ごう）に向かいながら、晴れ渡った空をあおいだ。翼長43メートル、全長30メートルの銀色の要塞（ようさい）が、南の空にびっしりと張り付いている。真っすぐこちらに向かってくるのを見て思った。

「この一帯に軍需工場はここしかない。間違いなく、狙ってくる」

8時44分。米軍資料によると、計2846・3トンもの焼夷弾を2時間10分にわたって投下していく。

淀川さんは防空壕の隙間から同僚たちと身を寄せて機体を見上げた。

真上でまかれた焼夷弾はそれぞれ真っ青な空でバラバラにはじけ、ソフトボール大の黒い塊になって降ってくる。

しかし、それは工場敷地内に落ちず、北側に大きくそれていくように見えた。

「トシちゃんの家の方から火が上がってるよ！」誰かが大声で言った。



淀川さんは軍需工場が無事だったのにもかかわらず、北約1キロ先にある自宅の一帯が焼け野原になったことを長らく「米軍の投下ミス」だと思い込んできた。

しかし、作戦は確実に遂行されていた。

米軍は、尼崎を中心に3カ所の攻撃点を設け、その一つが淀川さんの自宅もあった市街地の「直径2・4キロ地帯」だった。狙いは国鉄（現・JR）沿線にある国内随一のプロペラ工場「住友金属プロペラ製造所」だったのだ。

米軍指揮官だったカーティス・ルメイは1月の就任後、火災に弱いという日本建物の弱点に着目して「焼夷弾攻撃」を採用。3月から始めた尼崎空襲は当初、日本軍の対空砲火や空中戦に備えて夜間を狙ったが、日本側の戦闘力が低いと分かった、6月からは午前中に仕掛けるようになった。

この日、4回目となる尼崎空襲は大阪とのセットでなく、尼崎を集中的に狙った最初で最後の攻撃だ。

先頭を飛ばす機体が工場向けの「結束焼夷弾」を落として炎上させ、後続機が延焼力の高い「油脂焼夷弾」を次々に放って大火災を引き起こした。



では、なぜ淀川さんが働いた軍需工場は狙われなかったのか。それどころか、尼崎市内では「日本石油製油所」や「尼崎人造石油工場」「陸軍燃料廠（しょう）」など武庫川河口に広がる臨海工業地帯も無事だった。

その理由を、米軍文書はこう記す。

「区画が水路や空き地で区切られ、大規模な延焼が期待できない」。

つまり、川や海に近いと消火されやすく、作戦効率が悪いと判断された。

「尼崎は大阪の付随とみなされ、結果的に徹底した攻撃を免れた可能性がある」と、

市立歴史博物館職員の辻川敦氏は指摘する。

プロペラ工場は66%が壊され、市内の建造物区域の11%が焼き尽くされても、市史などに伝わる尼崎の死者は479人で、同県西宮市の637人に比べて少ないのは、作戦の違いが影響しているという。

米軍はこの日の尼崎空襲をもって「5大都市空襲を完了」とし、

西宮をはじめとする中小都市への無差別攻撃に戦術を切り替えていく。

（竹本拓也、久保田麻依子）

■3. 2021年8月19日

狙われた理由(3)阪神空襲と米軍文書 同時攻撃で迎撃を分散



上左: 川西航空機鳴尾製作所への爆撃後、米軍が撮影した写真(米国国立公文書館所蔵)

上右: 1942年の鳴尾村を再現した鳥瞰(ちょうかん)図。競馬場の場所が鳴尾飛行場になる(「鳴尾村誌」より)

1942年の鳴尾村を再現した鳥瞰(ちょうかん)図。競馬場の場所が鳴尾飛行場になる(「鳴尾村誌」より)

下左: 米軍が撮影した川西航空機宝塚製作所への爆撃。右上は武庫川(米国国立公文書館所蔵)

下中: 鳴尾飛行場一帯。右は鳴尾川=1959年

下右: 米軍が記録した川西航空機宝塚製作所の損害状況米軍が記録した川西航空機宝塚製作所の損害状況

激しい地響きと共に、少年少女らが暮らす50棟の寮施設が次々と崩れ落ちた。

1945年7月24日午前10時半すぎ、兵庫県宝塚市域にあった航空機生産工場「川西航空機宝塚製作所」に、77機のB29が1千ポンド爆弾901発を集中投下した。

「ストライク」。そんな説明付きの写真を米軍兵が撮った真下で、製作所職員だった当時39歳の男性Sさんは寮内の防空壕(ごう)にいて、がれきに埋もれた。動員された少年ら200人の世話を寮でしていた。

病気の2人を両脇に抱いて壕からはい出ると、続く爆撃で吹き飛ばされた。その頃、どこからか対空砲火が放たれ、B29の1機が墜落する。しかし、日本軍の戦闘機はほとんど現れず、空からの攻撃はやむことがなかった。

米軍の作戦は通称「エンパイア計画」。宝塚と大阪、名古屋市などの主要な重工業施設6カ所を同時に襲撃する。狙いの一つは、日本側の迎撃態勢を分散させることにあったのだ。倒壊した女子寮でSさんは少女の頭を見たが、木材に挟まれて救えない。その奥で、少女8人が寮母に抱かれるように折り重なって息絶えているのが見えた。

「何故(なぜ)この様な子供まで犠牲にしなければならなかったのか」。Sさんは戦後、そう問い続け、惨状を手記に残して亡くなった。



3月16～17日 神戸空襲 約280機 6月5日 神戸空襲約150機

6月9日 川西航空機の鳴尾製作所・川崎航空機の明石製作所への爆撃 計約50機

7月24日 川西航空機の宝塚製作所への爆撃(エンパイア計画) 県外含めて25～30機

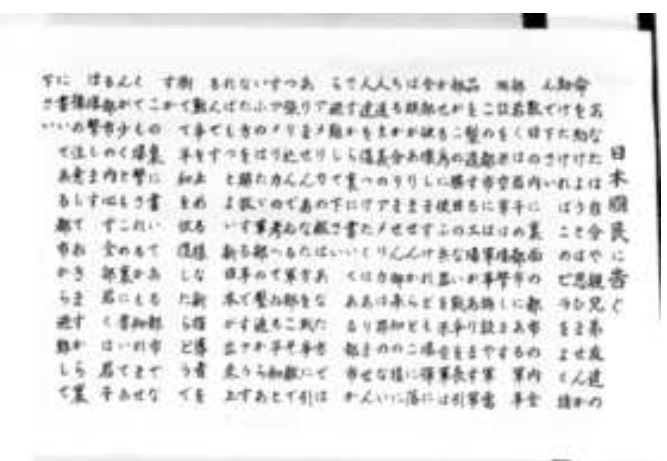
これは米軍文書に残る日本軍戦闘機の迎撃機数だ。6月の神戸空襲を米軍は「大阪一名古屋地域で最も激しい抗戦」と記録。日本軍は戦闘機150機と高射砲で迎え撃ち、B29は474機のうち11機を失い、170機以上が損傷した。しかし、これを機に日本軍の戦闘機出動は激減する。そこで米軍は航空機の生産拠点を徹底的にたたいて戦闘力を弱める戦術を進めた。反撃されやすくとも命中率が高い昼に狙い、同時多発攻撃で迎撃リスクを避けたのがエンパイア計画だった。市史などによると鳴尾製作所では工場の6割以上が破壊・焼失され、付近住民を合わせ48人が死亡。宝塚製作所は8割を焼き壊され、計106人が死亡したとされる。



「日本の本土防衛には、わずかの戦闘機しか残っていないと考えられる」。計画遂行後、米軍文書はそう考察を記す。宝塚では日本の数機が飛来してきても、攻撃さえしてこなかった。旧防衛庁資料によると、京阪神には伊丹、大正飛行場（現・伊丹、八尾空港）という二つの防空拠点があったが、部隊は43年から外地に駆り出されて全滅を重ね、戦力を消耗していた。それでも、尼崎市立歴史博物館職員の辻川敦氏はこう指摘する。「迎撃自体の効果が期待できず、残った戦闘機はできるだけ温存して避難させていたんです」日本軍は本土決戦に向けて、体当たり攻撃などの奇襲に備えていた。米軍は交戦することなく空からの攻撃で終わらせようとしていた。標的は施設ではなく、人そのものへと移っていく。（竹本拓也）

2021年 8月21日。

■4. 狙われた理由(4) 阪神空襲と米軍文書 西宮一御影業火に包む



左上：阪神大空襲で家屋などが焼き壊された西宮神社付近

右上：1945年7月27、31日に米軍が西宮市上空からまいたビラ。

「爆弾には眼がありませんからどこに落ちるか分かりません」などと記す

左下：「全国主要都市戦災概況図」にある西宮市の被災状況（国立公文書館デジタルアーカイブから）

右下：「空襲にも人の死にも慣れてしまっていたことが恐ろしい」と語る宮内宏さん＝西宮市

真っ暗な空から火の雨が降ろうとしていた。

1945年8月6日午前0時半ごろ、「プーン、プーン」と兵庫県西宮市松下町の住宅街に空襲警報が響きわたる。当時7歳だった宮内宏さん(82)は、夜空一面に小さくきらめく無数の火の玉を見て「きれいな星々だな」と思った。

家族10人と庭の防空壕(ごう)へと駆け込もうとした瞬間、焼夷(しょうい)弾が家々の壁や屋根に突き刺さり、あちこちで火柱が上がる。メキメキと焼けていく音を壕の中で聞いた。

「近くに軍需工場があるから狙われたんじゃないか、と幼心に思った」

その直後、西宮市域の南東部にあった鳴尾村(当時)でも住宅街に炎が広がる。

村には川西航空機鳴尾飛行場があり、住民たちは「戦闘機を松林に隠したから標的にされたんじゃないか」とうわさした。西宮市―神戸市東灘区を業火に包んだ「阪神大空襲」。

米軍文書によると、255機のB29が西宮市域の南西から飛来し、1時間36分にわたり、北東へと波状的に1922・8トンもの焼夷弾を落とした。当時の西宮市域の約2割が焦土と化し、485人が命を落とした。

鳴尾村でも188人、芦屋市でも89人が犠牲となったとされる。



これまでの連載で、6月の尼崎空襲はプロペラ工場などが狙われ、7月には航空機工場が標的にされたことを書いてきた。ならば、阪神大空襲は何を目標としたのか。

米軍資料を調査する神戸大学地域連携センターの学術研究員佐々木和子氏は「それは単純かつ合理的なもの」としてこう解説する。

「住宅密集地。特定の軍事目標をたたくのではなく、狙ったエリアのすべてを無差別に攻撃する『じゅうたん爆撃(カーペット・ボミング)』です」

6月5日に「神戸」、6月15日に尼崎を含む「大阪」を狙った「5大都市空襲」を完了させた米軍は、それ以外の中小都市を壊滅させる作戦に移る。

米軍資料によると、通常は一つの中小都市に一つの航空連隊140機程度で臨むところ、西宮―御影間を1都市とする「阪神」には倍の2隊を向けていた。神戸、大阪の大都市に挟まれた「産業の後背地」としてとどめを刺したのだ。

実は1週間前、米軍は2度にわたり、西宮の空から大量のビラをまいていた。

「罪のない人達を傷つけたくはありませんですから裏に書いてある都市から避難して下さい」

無差別空襲の予告だった。米軍はこれを「フェアな警告戦法」とし、市民の戦意を喪失させつつ、米軍への信任を深めさせる狙いを込めていた。

しかし、「阪神大空襲は、市民の防火レベルを完全に超えている」と佐々木氏は話してこう指摘した。

「人々は結局、イライラ、じたばたしながら、待つしかなかったんです」

空襲を終えて6時間後、B29は人類初の原子爆弾を広島空から投下した。



阪神間へのB29による空襲は尼崎市で8回、西宮市で5回、芦屋市で4回を数えた。7月下旬からは中小都市に当たらないまちにも戦闘機で機銃掃射を加え、川西市で少なくとも5人、三田市でも児童ら5人の命を奪った。

8月15日。戦争は終わった。(竹本拓也、村上貴浩)

3. 絵文字で描いた兵庫県全図 いま インターネットで絵文字の場所探しが人気に
一番の人気はお城の絵文字で描かれた尼崎だと…・ほかにもいろいろ場所探しにはまっています。



小森文美さんがデザイン「絵文字で描いた兵庫県図」
<https://maidonanews.jp/article/14428775>
 今インターネットで 絵文字の場所探して
 話題やという
 皆さんは幾つご存じでしょうか
 正解はみなそれぞれ ワイワイガヤガヤが狙いとも

一番の人気は尼崎城やと。
 川西の絵文字の場所は三ツ矢サイダー発祥の地だと初めて知りました。
 地図の場所大体そうぞうついたのでありますが・・・7つの「山」の絵図で示された〇〇アルプスと称される山並のようですが、まだよくわからず、解明中。

絵文字で描いた兵庫県図
 ご存知と思いますが、
 尼崎の話題の意味も込めて、お知らせ。
 作者からは絵文字の場所公開されていないので、余計に誰もが思い思いに想像できるので面白い。
 下から4段目の左から2つ目「鹿」の絵文字も面白い。いったいどこやろか・・・と。
 どうも「鹿ヶ壺」という名所らしい。

元気になったら、一度行ってみようか・・・と
 2021.9.1. from Kobe Mutsu Nakanishi

小森文美さんがデザイン「絵文字で描いた兵庫県図」 <https://maidonanews.jp/article/14428775>

「絵文字で描いた兵庫県図」 場所のシンボル絵文字ヒント抜粋

一番人気だという 私の故郷「尼崎」のシンボル絵文字 探せますか・・・



この絵文字なに？と聞かれそうなものを書いときますね

北から順に

- 🔨 生野銀山
- 🔭 西はりま天文台
- 🔪 三木市・小野市の金物
- 🌸 加西市のフラワーセンター
- 📊 播州そろばん
- 🍷 川西市の三ツ矢サイダー
- 🐦 太子町の斑鳩寺
- 🏟️ 神戸市須磨区のユニバー競技場
- 🏝️ 家島諸島

絵文字57個で表現した「兵庫県」を拡大して見る（こもりあやみさん提供）

4. 平和って なんだろう 8月いつも思い起こす「命は宝」

コロナ禍の中で生活が脅かされる政治主導が全く方向を見失ってしまった日本の社会
神戸新聞に掲載された評論に惹かれました

2021年(令和3年)8月30日 月曜日 14版 総合 2 神戸新聞

針路21

平和主義の実践

客員論説委員
直野 章子



へいって、なんだろう。しかし、相手は3歳から
學が広島の保育園に通う。6歳までの幼児である。いっ
ていた頃、よく口にしていた。たいとちやって「平和」を教
えた。聞かずに「そうだな」といっているのか先生に尋ねてみ
「なんだろう」と心の中でつ
ふやっていた。
爆心地近くの園だけあって
か、折り鶴を折ったり、原爆
や戦争の絵本を読み聞かせた
りする平和学習が行われてい
わね」と「戦争がない状態」
だろう。

子どもにどう教えれば

2面に続く

といふ。「平和」の意
味を共に学んでいるが、どち
らかといふと前者に重きを置
いている。「平和な心」や「平
和な暮らし」であれば、幼く
てもつかむことができるから
だろう。そのうえで、戦争で
命や家族を奪われた子どもの
話をすると、「戦争」や「原
爆」は「平和」を壊すものだ
と、子どもたちにも伝わる。
こうして、それが何である
かは理解できなくとも、戦争
や原爆は嫌だという気持ち
が、子どもの心に芽生えるの
だろう。

へいって、なんだろう
學が広島の保育園に通っ
ていた頃、よく口にしていた
歌だ。聞かずに「そうだな
なんだろう」と心の中につ
ふやっていた。

1面から続く

戦後日本の平和教育や「戦争体験の継承」では、戦争がいかに悲惨な体験だったかを伝えることで、戦争を否定し、平和を尊ぶ心を育もうとしてきた。しかし、戦争体験を知ると、平和の大切さが理解できたとしても、それが反戦や非武装といった平和主義の理念につながるとは限らない。

近代日本の戦争が「東洋の平和」を掲げて遂行されたように、「戦争」と「平和」は、必ずしも対立するわけではない。「平和な暮らし」を守るためにこそ、武装する必要があると考えることもできるからだ。実際に、戦後日本の世論は、非武装主義を掲げた憲法を擁護する一方で、「力による平和」を暗に支えてきた。

敗戦から間もない時期、「戦争はもうこりこり」という感情が広く生じていたのは確かだろう。しかし、戦争や再軍備に反対する意

針路21

暮らし脅かす権力にあらがう

見が主流であったかという点、そこをわけてきたと評価するとはでは足りない。1950年代の世論調査を見ると、条件付きで戦争を肯定する人の方が絶対反対という人より多かったし、54年の自衛隊発足までは、再軍備に賛成する人が反対の人よりも多かった。また、戦争に絶対反対、再軍備反対の意見が多数派になった60年代になっても、国防のための軍備は必要と

をわけてきたと評価するとはでは足りないという意識は、戦後の日本社会で定着した。平和運動や平和教育をはじめ、ジャーナリズムや文化、芸術など多様な領域において戦争体験を記憶する努力が重ねられてきた結果であろう。しかし、

平和主義(パシフィズム)とは元来、非暴力の信念に基づいて戦争や戦争準備に不服従の態度を貫く抵抗運動であり、例えば、兵

をわけてきたと評価するとはでは足りないという意識は、戦後の日本社会で定着した。平和運動や平和教育をはじめ、ジャーナリズムや文化、芸術など多様な領域において戦争体験を記憶する努力が重ねられてきた結果であろう。しかし、

新しいコロナ禍が広がる中、五輪開催の懸念を問われて、菅義偉首相は「平和の祭典」と応じた。東京五輪は強行され、感染拡大は止まらない。私たちの命と暮らしを脅かす決定を下しながら「平和」を口にする為政者に対して、平和のうちに生きる権利を掲げて抗議すること。それが、私たちの平和の実践であり、戦争体験から積み上げてきた平和意識を引き継ぎ、発展させることにつながるのである。

いう人は、不要という人を母に上回っていたし、自衛隊を肯定する意見も増え多数派だった。敗戦後、侵略戦争と軍国主義は否定されたが、国を守るためには武装して有事に備える必要があると考える国家安全保障論は、自衛隊肯定という形で、世論に支持されてきたといえるのだ。

平和意識と運動が、日本の核武装や軍事化に一定の歯止め

義務への不服従という形をとる。国際政治学者の坂本義和が指摘したように、平和主義は、武力に訴えようとする国家権力に徹底的にあらがう、個人の主体的選択や意思に支えられた思想なのであって、権力との緊張関係に立つことなく平和を擁護する態度を、厳密な意味において平和主義と呼ぶことはできないのである。

確かに、戦争を繰り返してはな

ら遠く、じつくりと向き合う必然性を感じることはないからだ。若い世代が、我が事として捉えるには、戦争の被害体験だけでなく、被害者や加害被害者が戦後を生き抜いたかを伝えることが重要なのではないだろうか。戦争で傷を負わされただけでなく、戦後においても、被害を耐え忍ぶよう強いられた人々は、被害を

めて立ち上がった。国家の責任を担及してきたその闘いは、戦争を体験していない世代にとっても学ぶべきが多い。平和のうちに生きる権利を侵害された時には、相手が国家であっても声を上げてあらがう。その姿は、私たちの手本となる。

（なおの・あきこ）「京都大学文学部准教授・歴史社会学」